

令和元年度第2回学校運営協議会 概要

嶺北高等学校

日 時 令和元年 10 月 24 日(木) 18:00～19:40

会 場 嶺北高等学校第一会議室

◇委員名簿

No.	区 分	氏 名	出欠	No.	区 分	氏 名	出欠
1	学校関係者	山田 憲昭	○	6	地域住民	澤田 智則	○
2	保 護 者	古谷 雅之	○	7	地域住民	豊永 大五	○
3	学校関係者	岩本 誠生	○	8	地域住民	山下 由子	○
4	学校関係者	高石 清賢	○	9	地域住民	宮本 久義	○
5	学校関係者	松岡 寛	○	10	地域住民	山首 尚子	○

- 1 委員委嘱（古谷委員、松岡委員）
- 2 開 会
- 3 報 告

《取組の中間自己評価》

事務局より学校経営計画に基づく取組の中間報告があり、つぎの意見が
交わされました。

○家庭学習について

【山下委員】

- ・2年生の家庭学習時間の37分は少ない。

【事務局】

- ・家庭学習習慣と既習事項の定着を目的に、教員には可能な範囲で宿題を出すようお願いしている。

○学力格差について

【山首委員】

- ・学力格差への取組は？特に底辺層へのサポート体制は整備できているのか。

【事務局】

- ・放課後の学習支援員による指導や教科担任による指導を行っている。

【豊永会長】

- ・基礎学力不足の生徒もいるが、入学する前の指導が大切だと考える。
中高一貫の枠組みを活かした指導ができると良い。

○志願先を迷っている中3生について

【山田副会長】

- ・中3生へのアプローチについて、学校説明会や体験入学など、大きな取組は一通り終わったが、要請があれば説明に行く。

【事務局】

- ・体験入学のアンケート結果について、「悩んでいる」を取り出した集計はない。専門高校や他校と比較しながら検討している時期だと思う。

【高石委員】

- ・人は直近のイメージが強い。嶺北高校のあとで体験入学に行った学校のイメージが強く残る。生徒を呼び込むためにはアクションが必要だと考える。
- ・迷っている理由の解明が必要。

【事務局】

- ・アンケートでは悩んでいる理由まで問うてはいないが、明確にする必要は感じる。次年度実施に際しては検討する。

【山首委員】

- ・先日、県外の保護者が社協などを熱心に見学していった。志願先を決めるのは本人だとしても、保護者の影響は大きいと思われるが、保護者のアンケートはとっているのか。

【事務局】

- ・保護者も対象としているが、体験入学に参加する保護者は県外生の保護者のみ。対象が限定される。

【澤田委員】

- ・子どもたちにとって、どういったことが学べるのかを明確にすることが大切。

【山下委員】

- ・県外出身生徒にあって、そのいきいきとした姿に見方ががらりと変わった。県外での説明会の際には、そんな生徒と保護者に話をしてもらったらどうか。学校の活性には一定の数が必要であるし、競り合いも必要だと考える。

【宮本委員】

- ・自分が高校を選ぶときのことを思い起こしても、中3生が明確な目標を持っているとは思えない。やはり魅力が必要。「嶺北高校に来たら面白そう」を出していく必要がある。

【山下委員】

- ・高知市内のある私立高校は看護師の合格率が高い。将来の職に繋がっていくような看板があれば広範囲から人が集まる。

【岩本委員】

- ・部活や学習において、秀でた部分を作り出す必要がある。

【山首委員】

- ・タブレット端末について、例えば宿題を出すなど学習面での活用は？
- ・「嶺北高校は楽しい」が発信できれば魅力になる。工夫はできないか。

【山田副会長】

- ・第1学年が docomo 社の研究指定を受けて活用している。来年度は全校生徒に一人1台タブレットの導入を目指している。

【事務局】

- ・1年生はタブレットを家に持ち帰り「総合的な探究の時間」の課題に取り組んでいる。宿題の送受信やeポートフォリオなどの活用も考えられる。

【澤田委員】

- ・土佐町中の現1・2年生はeポートフォリオを使っている。データを受け取って欲しい。

【山首委員】

- ・ICT機器については、生徒自身が活用法を探っていくような使い方が望ましい。

【豊永会長】

- ・ICT機器を使うことが魅力ではなく、どう使い教育に活かすのが肝要。

4 協 議

《新教育課程について》

山田委員より編成の方針、事務局より編成中の教育課程について説明があり、以下の意見が交わされました。

○新教育課程について

【澤田委員】

- ・案では、科目「総合的な探究の時間」が、各学年 1 単位の計画になっているが少くないか。地域に開かれた探究として中心に据えてもらいたい。

【古谷委員】

- ・英語の授業が少ないように感じる。

【山首委員】

- ・嶺北地域において、医療・福祉・介護の学びは大変重要であることを踏まえながら、地域と一体になって従事者の育成に取り組んでももらいたい。従事者育成のためには、現場の実際に繋げる場面が必要。

【山下委員】

- ・今やっていることに新たなことを上乗せすると先生はオーバーフローする。今の仕事を見直す、整理することが重要。

【山田副会長】

- ・職員のモチベーションを大切にしていきたい。専門性以外の部分は外部指導者に任せるなど、専門性が発揮できる環境の整備に努める。

【山首委員】

- ・受援力が大切。地域に支援を求められるよう先生の意識を変えないといけない。

【岩本委員】

- ・中高一貫教育の検証が必要。いかに連携するかを考えないといけない。

【豊永会長】

- ・週 30 時間で全てを満たすのは困難。探究に重点を置くためには教科との連携が必要。
- ・地域と繋がり、力を借りることが肝要。
- ・中高が連携していく中で、目玉になるものができるだろうか。

【山首委員】

- ・ある人は、中学校での総合的な学習の時間が一番楽しかったと言っていた。自分たちで作りに上げていく授業が大切だと思う。ICT化を進めながら、探究の時間を通じて魅力を発信してもらいたい。

5 閉 会